

授業計画（シラバス）

専門課程 美容科 1年次

広島県理容美容専門学校

関係法規・制度	1
衛生管理	
公衆衛生・環境衛生	2
感染症・衛生管理技術	3
保健	
人体の構造及び機能	4
皮膚科学	5
化粧品化学	6
文化論	7
美容技術理論	8
運営管理	9
美容実習	10
ヘアカラー	11
トータルビューティ	12
ベーシックカット	13

平成31年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課目名	関係法規・制度			必修/選択	必修	担当者	恒松 義明		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜 日	木	時 限	1	単位数	1	時間数	30
学習目標	法制度の概要から、わが国の衛生行政について学ぶとともに、理容師法・美容師法の用語・規定を理解する。また、理容師・美容師について必要とされる関連法規について知識を深める。								
授業概要	社会生活における法の役割と法制度の概要を理解し、わが国の衛生行政の仕組み、理容師法・美容師法・同施行令・同施行規則等について理解し、理容業・美容業に關係する法律や制度について学習する。講義はパワーポイントとワークシートを活用する。グループ討議を実施する。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	法制度の概要①			1 社会生活における法の役割（人と社会生活、法とは何か） 2 法の形成（憲法と日本の法令体系、条約、法律、命令、自治法規）					
第2回	法制度の概要②			3 衛生法規の概要（衛生法規の意義、衛生法規の分類と生活衛生法規） 4 理容師法・美容師法と附属法令					
第3回	衛生行政の概要①			1 衛生行政の意義と歴史（行政とは何か、衛生行政の意義、我が国における衛生行政の歴史）					
第4回	衛生行政の概要②			2 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（衛生行政の分類、生活衛生行政） 3 衛生行政を担う行政機関（一般衛生行政の仕組み、厚生労働省の役割）					
第5回	理容師法・美容師法①			1 目的 2 用語の定義（理容・美容、理容師・美容師、理容所・美容所）					
第6回	理容師法・美容師法②			3 人（理容師・美容師）に関する規定（概説、養成施設の入所資格、養成施設）					
第7回	理容師法・美容師法③			3 人（理容師・美容師）に関する規定（試験、免許と登録）					
第8回	理容師法・美容師法④			3 人（理容師・美容師）に関する規定（理容師・美容師の義務）					
第9回	理容師法・美容師法⑤			3 人（理容師・美容師）に関する規定（業務停止、免許取消及び再免許、管理理容師・管理美容師）					
第10回	理容師法・美容師法⑥			4 施設（理容所・美容所）に関する規定（概説、理容所・美容所の開設）					
第11回	理容師法・美容師法⑦			4 施設（理容所・美容所）に関する規定（開設者が講ずべき衛生措置、理容所・美容所以外での業務）					
第12回	理容師法・美容師法⑧			5 立入検査と環境衛生監視員 6 違反者等に対する行政処分（違反者等に対する行政処分、不利益処分を行う場合の手続き、違法または不当な処分等についての審査請求）					
第13回	理容師法・美容師法⑨			7 罰則（罰則について、理容師法・美容師法の罰則）					
第14回	関連法規①			1 理容業・美容業の運営に關連する法律 2 理容業・美容業の衛生に關連する法律 3 理容業・美容業の消費者保護に關連する法律					
第15回	関係法規・制度のまとめ①			○理容師・美容師試験対策 ○参考資料の確認 1 理容師法・美容師法の構成 2 理容師法・美容師法の歴史					
教科書	関係制度・法規（日本理容美容教育センター）								
参考書	日本国憲法、理容師法関係法令集、美容師法関係法令集								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	衛生管理 公衆・環境			必修/選択	必修	担当者	森澤 みゆき		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜 日	木	時 限	1・2	単位数	1	時間数	30
学習目標	理容業・美容業を通して公衆衛生の維持・増進への責務の重要性を知る。 環境衛生の意義と内容を理解し、理容所・美容所における環境衛生を学ぶ。								
授業概要	公衆衛生の意義、環境衛生、特に理容業・美容業務上で必要な衛生知識などについて テキストに沿って授業を行う。講義は、パワーポイントを使用する。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	公衆衛生の概要①				公衆衛生の意義と課題				
第2回	公衆衛生の概要②				公衆衛生の発展の歴史①				
第3回	公衆衛生の概要③				公衆衛生の発展の歴史②				
第4回	公衆衛生の概要④				理容師・美容師と公衆衛生①				
第5回	公衆衛生の概要⑤				保健所と理容業・美容業				
第6回	保健①				保健①				
第7回	保健②				保健②				
第8回	公衆衛生 まとめ				まとめ・質疑応答・模擬問題				
第9回	環境衛生①				環境衛生の概要①				
第10回	環境衛生②				環境衛生の概要②				
第11回	環境衛生③				空気環境				
第12回	環境衛生④				衣服・住居の衛生				
第13回	環境衛生⑤				上下水道と廃棄物				
第14回	環境衛生⑥				衛生害虫とネズミ				
第15回	環境衛生⑦ まとめ				環境保全 まとめ・質疑応答・模擬問題				
教科書	衛生管理 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	衛生管理 感染症・衛生管理技術			必修/選択	必修	担当者	永野 孝夫		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜 日	火・水	時 限	1	単位数	2	時間数	60
学習目標	感染症に対する正しい知識の習得、その予防方法や対策について学ぶ。 理容所・美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について学ぶ。								
授業概要	理容・美容の業務と感染症の関わりを理解させる。 消毒薬の特徴を理解させる。								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	人と感染症				感染症発見の歴史、感染症と法律、感染症の分類				
第2回	病原微生物				微生物の種類、形、大きさ、構造				
第3回					微生物の増殖と環境の影響				
第4回	感染症の予防				微生物の病原性と人体の感受性				
第5回					汚染、感染、発病 免疫、感染症予防				
第6回	理容・美容と感染症				空気、飛沫、経口感染症				
第7回					血液、体液、動物による感染症				
第8回	具体的な対策の例				予防策やその対応				
第9回									
第10回	消毒とは				病原微生物と非病原微生物				
第11回					消毒の原理				
第12回	消毒の意義				汚染、感染、発病と消毒の意義				
第13回					殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義				
第14回	理容・美容の業務と消毒との関係				消毒に関連のある法の規定				
第15回					消毒を怠った場合の危険と理・美容師の責任				
第16回	消毒法と適用上の注意				消毒法の種類、消毒に必要な条件				
第17回					消毒薬の使用や保存上の注意				
第18回	理学的消毒法（殺菌法）				紫外線消毒、煮沸消毒				
第19回					蒸気消毒、その他の理学的消毒法				
第20回	化学的消毒法（殺菌法）				アルコール、塩素剤による消毒				
第21回					界面活性剤、グルコン酸、その他の消毒薬				
第22回	すぐれた消毒法とその実施上の注意				すぐれた消毒薬の条件				
第23回					消毒を行う際の注意事項				
第24回	各種消毒薬				消毒薬の概要、器具の使い方				
第25回					消毒薬の希釈について				
第26回	理容所・美容所の消毒の実際				消毒の原則、消毒設備				
第27回					理容・美容器具類の消毒法 手指の消毒				
第28回	理容所・美容所の清潔法の実際				清潔保持と清掃				
第29回					清掃、消毒、衛生害虫の駆除				
第30回	衛生管理の実践例				理容所及び美容所における衛生管理要領				
教科書	衛生管理 （日本理容美容教育センター）								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	保健・人体			必修/選択	必修	担当者	丸山 昭紀		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜 日	金	時 限	1	単位数	1	時間数	30
学習目標	人体の構造、機能に関する科学的、系統的知識を理容・美容技術と関連させながら学習する。								
授業概要	人体の構造や機能について頭頸部を中心に解剖学を、人体を理解するために骨格器系、筋系、神経系、感覚器系、血液・循環器系、呼吸器系、消化器系などに分けて学習する。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学				人体各部の名称				
第2回	骨格器系				骨の種類と構造				
第3回	筋系				筋の種類とその特徴				
第4回	表情筋と表情運動				眼、口、鼻を中心にした筋				
第5回	神経系				神経系の成り立ち				
第6回	中枢神経とそのはたらき				脳、脊髄の構造とはたらき				
第7回	感覚器系				視覚、聴覚、味覚、嗅覚のはたらき				
第8回	平衡感覚				半規管、前庭、耳石、平衡砂のはたらき				
第9回	血液				血液のあらまし				
第10回	循環器系				血液の循環経路				
第11回	リンパ管系				リンパ管系の仕組みと働き				
第12回	呼吸器系				呼吸器系のあらまし				
第13回	肺の仕組みとガス交換				肺の構造とはたらき				
第14回	消化器系				消化器系のあらまし				
第15回	消化管のはたらき				咀嚼、嚥下、胃腸の運動				
教科書	保健 (日本理容美容教育センター)								
参考書	理容・美容保健 学習指導の手引き (日本理容美容教育センター) 及びDVD鑑賞								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	保健・皮膚科学			必修/選択	必修	担当者	丸山 昭紀		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜日	火・水	時限	2	単位数	2	時間数	60
学習目標	理容師・美容師の業務の特徴上、皮膚や毛髪に関する深い知識が求められることから、お客さまの頭皮、毛髪、肌の健康管理ができる知識を学ぶ。								
授業概要	テキストの内容を別途資料などを踏まえ、分かりやすく解説して理解を深めさせることで理容師・美容師として必要な皮膚やその付属器官についての知識を習得させる。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	第1章 皮膚の構造			1項 皮膚の表面、2項 皮膚の断面					
第2回				3項 表皮					
第3回				4項 表皮と真皮の境、5項 真皮					
第4回				6項 皮下組織、7項 皮膚の部位差					
第5回	第2章 皮膚付属器官の構造			1項 毛					
第6回				2項 脂腺（皮脂腺）、3項 汗腺、4項 爪					
第7回				2項 脂腺（皮脂腺）、3項 汗腺、4項 爪					
第8回	第3章 皮膚の循環器系と神経系			1項 皮膚の血管、2項 皮膚のリンパ管、3項 皮膚の神経					
第9回	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能			1項 対外保護作用					
第10回				2項 体温調節作用、3項 知覚作用と皮膚反射					
第11回				4項 分泌排泄作用					
第12回				5項 呼吸作用、6項 吸収作用、7項 貯蔵作用					
第13回				8項 免疫・解毒・排除作用、9項 再生作用					
第14回				10項 毛のはたらき、11項 爪のはたらき					
第15回	期末試験の解説			期末試験の問題解説と確認					
第16回	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健			1項 皮膚と全身状態、2項 皮膚と精神、3項 皮膚と栄養					
第17回				4項 皮膚とし好品、5項 皮膚と体内病変					
第18回				6項 皮膚の水分と脂の状態					
第19回				7項 皮膚・付属器官とホルモン、8項 皮膚の保護と手入れ					
第20回				9項 毛の保護と手入れ、10項 爪の保護と手入れ、11項 子どものおしゃれによる皮膚トラブル					
第21回	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患			1項 皮膚の異常とその種類、2項 皮膚疾患の原因					
第22回				3項 皮膚疾患の治療法、4項 皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹					
第23回				4項 皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹、5項 口唇の疾患 6項 温熱・寒冷による皮膚障害、7項 角化異常による皮膚疾患					
第24回				8項 色素異常による皮膚疾患、9項 血管腫（アカアザ） 10項 脂腺母斑、11項 下肢動脈瘤					

第25回		12項 分泌異常による皮膚疾患
第26回		13項 化膿菌による皮膚疾患、14項 ウイルスによる皮膚疾患
第27回		15項 真菌による皮膚疾患、16項 衛生害虫による皮膚疾患
第28回		17項 感染症の皮膚疾患の予防、18項 毛と爪の疾患
第29回		18項 毛と爪の疾患、19項 皮膚の腫瘍
第30回	期末試験の解説	期末試験の問題解説と確認
教科書	保健 (日本理容美容教育センター)	
参考書		
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。	

課目名	化粧品化学				必修/選択	必修	担当者	曾田 紘一郎		
履修年次	1年全期	曜日	水・木	時限	2	単位数	2	時間数	60	
学習目標	化粧品に用いられている原料の化学性質や配合目的などについて学び、各種化粧品の有用性、安全性、使用目的についての知識を深める。									
授業概要	化粧品概論、化粧品原料、基礎化粧品、メイクアップ化粧品、頭皮・毛髪用化粧品、芳香製品と特殊化粧品の項目に分け解説。業務上使用する化粧品だけではなく、一般の化粧品に表示されている配合成分の性質や配合などについて学ぶ。									
年間授業計画										
回	主 題				授 業 内 容					
第1回	1章 化粧品概論				1節 化粧品の社会的意義と品質特性					
第2回					2節 化粧品の規則					
第3回					3節 化粧品の安定性と取り扱い上の注意					
第4回					4節 化粧品と安全性					
第5回	2章 化粧品原料				1節 化粧品の対象となる人体各部の性状					
第6回					2節 水性原料					
第7回					3節 油性原料					
第8回					4節 界面活性剤					
第9回					5節 高分子化合物					
第10回					6節 色材					
第11回					7節 香料					
第12回					8節 その他の配合成分					
第13回					9節 ネイル、まつ毛エクステンション用材料					
第14回	3章 基礎化粧品				1節 皮膚清浄用化粧品					
第15回					2節 化粧水					
第16回					※前期期末試験の解説					
第17回					3節 クリーム・乳液					
第18回	4章 メイクアップ用化粧品				4節 その他の基礎化粧品					
第19回					1節 メイクアップ用化粧品の種類と剤形					
第20回					2節 ベースメイクアップ化粧品					
第21回	5章 頭皮・毛髪用化粧品				3節 ポイントメイクアップ化粧品					
第22回					1節 シャンプー剤					
第23回					2節 スタイル剤					
第24回					3節 パーマ剤					
第25回					4節 ヘアカラー製品					
第26回	6章 芳香製品と特殊化粧品				5節 育毛剤					
第27回					1節 芳香製品					
第28回	<付録>				2節 特殊化粧品					
第29回					化粧品科学を理解するための基礎化学					
第30回					※後期期末試験の解説					
教科書	化粧品化学 (日本理容美容教育センター)									
参考書										
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。									

課 目 名	文化論			必修/選択	必修	担当者	横西 祥由						
				授業方法	講義								
履修年次	1年全期	曜 日	火・水	時 限	1	単位数	2	時間数	60				
学習目標	お客様が求める美しさを的確に理解し、お客様との間にしっかりとした意見の一致を得た上で技術の提供ができるように、ヒントや創造の幅を広げるための基本を学ぶ												
授業概要	理容・美容の語義や現代社会との関わり、造形要素を学び、また文化史の中での理容と美容がどうかかわってきたのかを学習する。												
年 間 授 業 計 画													
回	主 題				授 業 内 容								
第1回	総論				1、総論								
第2回	日本の理容業・美容業の歴史				1、理容業・美容業の発生								
第3回					2、江戸時代の理容業・美容業								
第4回					3、近代の理容業・美容業								
第5回					4、現代の理容業・美容業								
第6回					ファッション文化史 日本編				1、縄文・弥生・古墳時代				
第7回	2、古代、飛鳥・奈良・平安時代												
第8回	3、中世、平安末・鎌倉・室町・戦国時代												
第9回	4、近世、戦国末・安土桃山・江戸時代												
第10回	5、近代、明治・大正・昭和20年まで												
第11回	6、現代、1945年～2000年以降												
第12回	ファッション文化史 西洋編								1、古代エジプト				
第13回									2、古代ギリシャ				
第14回									3、古代ゲルマン				
第15回									4、中世ヨーロッパ				
第16回					5、近世、16世紀～18世紀								
第17回					6、近代、18世紀末～19世紀								
第18回					7、現代、1910年代～2010年まで								
第19回					礼装の種類				1、和装の礼装				
第20回									2、洋装の礼装				
第21回													
第22回													
教科書	文化論 (日本理容美容教育センター)												
参考書													
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。												

課 目 名	美容技術理論 ①			必修/選択	必修	担当者	森澤 みゆき・小出 さかみ 横西 祥由		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜 日	月	時 限	1	単位数	5	時間数	150
学習目標	職業を通じて、より良い美容師の、技術と心を、お客様に提供できる美容師を実現するためには、美容の基礎的な理論と技術を学ぶこと。								
授業概要	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげて時間外学習 学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	序章 美容技術理論を学ぶにあたって			<ul style="list-style-type: none"> 美容理論と美容技術 作業姿勢 ・人格各部の名称 					
第2回									
第3回	1章 美容用具			<ul style="list-style-type: none"> 美容技術における用具 コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・ピン類 ヘアクリップ・ロット・ローラー アイロン・ドライヤー スチーマー 遠赤外線 					
第4回									
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回	2章 シャンプーイング			<ul style="list-style-type: none"> シャンプーイング総論 サイドシャンプー バックシャンプー スキャルプトリートメント リンス、コンディショナー 					
第12回									
第13回									
第14回									
第15回	3章 ヘアデザイン			<ul style="list-style-type: none"> 美容とデザイン 錯覚現象を美容に生かそう デザインの要素 デザインの原理 					
第16回									
第17回									
第18回									
第19回	4章 ヘアカットイング			<ul style="list-style-type: none"> ヘアカットイングとは シザーズとレザーの扱い方 ヘアカットイングの正しい姿勢 ブロッキング ベーシックカット技法 シザーズ、レザーによるカット技法 					
第20回									
第21回									
第22回									
第23回									
第24回									
第25回	5章パーマネントウェービング			<ul style="list-style-type: none"> パーマネントウェービングの歴史と現在 パーマネントの理論 パーマ剤の分類 注意事項 縮毛矯正 					
第26回									
第27回									
第28回									
第29回	6章ヘアセッティング			<ul style="list-style-type: none"> ヘアセッティングとは ヘアシェービング・カーリング カーリング ローラーカーリング ブロードライ アイロンセッティング バックコーミング アップスタイル ウィッグとヘアピース 					
第30回									
第31回									
第32回									
第33回									
第34回									
第35回									
第36回									
第37回	7章ヘアカラーリング			<ul style="list-style-type: none"> ヘアカラーの種類 ・タイプ別特徴 染毛のメカニズム 色の基本 毛髪のレベルとアンダートーン・パッチテスト パッチテスト 使用注意・酸性染毛料 					
第38回									
第39回									
第40回									
第41回									
第42回									
第43回	8章エステティック			<ul style="list-style-type: none"> 概論 ・皮膚の整理と構造 カウンセリング・マッサージ理論 フェイシャルケア技術 フェイシャル及びデコルテマッサージ フェイシャルパック ボディケア技術・ボディマッサージ 					
第44回									
第45回									
第46回									
第47回									
第48回									
第49回	9章ネイル			<ul style="list-style-type: none"> ネイルの種類 爪の構造と機能 ・爪のカット形状 ネイル技術と公衆衛生 カウンセリング ・ネイルケア アーティフェイシャルネイル 					
第50回									
第51回									
第52回									
第53回									
第54回									

第55回		・手と足のマッサージ
第56回	1 0 章メイクアップ	・メイクアップの概論
第57回		・顔の形態学的な概論
第58回		・メイクアップと色彩
第59回		・皮膚の整理と構造
第60回		・メイクアップの道具
第61回		・スキンケア
第62回		・ベースメイクアップ
第63回		・アイメイクアップ・アイブローメイクアップ
第64回	1 1 章日本髪	・リップメイクアップ
第65回		・まつ毛エクステンション
第66回		・日本髪の由来
第67回		・日本髪の各部の名称
第68回		・日本髪の種類と特徴
第69回	1 2 章 着付けの理論と技術	・日本髪と調和・装飾品・結髪道具
第70回		・結髪技術
第71回		・かつら
第72回		・衣装・季節・着物のいろいろ
第73回		・帯・小物・各部の名称
第74回		・たたみ方
第75回		・着付けの要領
		・留袖着付け
	・振袖着付け	
	・男子礼装	
教科書	美容技術理論1・2 (日本理容美容教育センター)	
参考書		
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。	

課目名	運営管理			必修/選択	必修	担当者	横西 祥由		
				授業方法	講義				
履修年次	1年全期	曜日	木・金	時限	1	単位数	1	時間数	30
学習目標	<p>経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ 人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ 顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ</p>								
授業概要	<p>経営者の視点と経営者の努力を理解して、自らがどのように行動すべきか、仕事がどのように創られているのかを学び考え、美容師の仕事を通じて顧客や社会に対する責任を具体的に学習する。</p>								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	経営とは・経営者とは			1、経営が必要とされる理由					
第2回				2、継続が難しい理由・経営が必要な理由 3、経営とは何か、経営資源と経営計画 4、経営戦略 5、経営戦略が目指すもの・顧客に選ばれる店の実現					
第3回	理容業・美容業の経営について			1、業界の概要、競争の変化 2、サービスとしての理容・美容 3、理容業・美容業の顧客について					
第4回	資金の管理			1、資金管理の重要性、収支と損益 2、会計の考え方、コストを管理する 3、税金について					
第5回	人という資源			1、人という資源とは、人の能力を高める 2、人をやる気にさせるために 3、給与・待遇・福利厚生、労働者の権利					
第6回	健康・安全な職場環境の実現			1、健康管理の基礎					
第7回				2、理容・美容の仕事と健康 3、理容業・美容業に特徴的な健康課題 4、理容・美容の作業環境に関する健康問題					
第8回	従業員としての視点から			1、社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任					
第9回				2、社会保険 公的年金・医療保険・労働保険 3、キャリアプランの重要性 4、仕事をするうえで考えるべきこと					
第10回	サービス・デザイン			1、顧客が求める価値、価値の実態					
第11回				2、顧客満足の実現のためのシステム 3、最も重要な価値：人 4、価値の多様性、サービスの範囲					
第13回	マーケティング			1、理容業・美容業のマーケティング					
第12回				2、マーケティング・ミックス 3、サービスのシステム化					
第14回	サービスにおける人の役割			1、接客についての理解、よい接客のために					
第15回				2、接客の実践 3、接客におけるトラブルと対応 4、接客で発生が予想される問題					

科目	5、問題を深刻化させないための対策・対処
教科書	運営管理（日本理容美容教育センター）
参考書	
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。

課 目 名	美容実習			必修/選択	必修	担当者	森澤 みゆき・小出 さかみ		
				授業方法	実習				
履修年次	1年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	14	時間数	420
学習目標	「美容技術理論」に基づき、美容師に必要な基礎技術の理解と習得を目的とし、国家試験の合格、各種競技会への出場を目指していく。								
授業概要	教員による見本、映像教材等を用い、目で確認しながら基本を体得できるように繰り返し練習をおこなっていく。職場体験学習として、美容所で実務実習を実施する。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回 ～ 第15回	シャンプーイング			クロス掛け、ブラッシング、サイドシャンプー バックシャンプー、トリートメント					
第16回 ～ 第35回	ヘアカットイング			ワンレングスカット グラデーションカット レイヤーカット セიმレングスカット レザーカット					
第36回 ～ 第55回	パーマネントウエービング			ブロッキング ワインディング ワインディングのバリエーション					
第56回 ～ 第70回	ヘアセッティング			ヘアカーリング ヘアウエービング ローラーカーリング ブロードライスタイリング アイロンセッティング アップスタイル					
第71回 ～ 第85回	ヘアカラーリング			酸化染毛剤 酸性染毛料 塗布技術のいろいろ					
第86回 ～ 第95回	エステティック			エステティック備品類 フェイシャル及びデコルテマッサージ 背中のマッサージ フェイシャルパックとマスク					
第96回 ～ 第105回	ネイル技術			ネイルケア アーティフィシャルネイル ネイルアート 手と足のマッサージ					
第106回 ～ 第120回	メイクアップ			スキンケア ベースメイクアップ アイメイクアップ アイブロウメイクアップ リップメイクアップ ブラッシュオンメイクアップ ひとりの顔から5つの表情を引き出す 特別に輝きたい目のために					
第121回 ～ 第140回	着付け技術			留袖着付け技術 振袖着付け技術 男子礼装羽織、袴着付け技術 女子袴着付け技術 打掛着付け技術 伝統的な花嫁化粧 タオル補整					
教科書	美容技術理論1・2 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	1期・2期・3期 期末試験60点以上、出席率100%(欠課時間数は補講を受ける)で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	ヘアカラー			必修/選択	選択	担当者	森澤 みゆき・小出 さかみ		
				授業方法	実習				
履修年次	1年後期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	2	時間数	60
学習目標	美容師に必要なカラー技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける								
授業概要	ヘアカラー剤の基礎知識を把握し、カラー技術を行うことができるように学ぶ。 JHCAヘアカラリスト検定の取得を目指す								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	塗布技術のいろいろを学ぶ				パネルの引き出し・角度・スライス・ブラシ塗布				
第2回	カットウィックをブリーチする				ブリーチのテクニック				
第3回	デザインカットスタイルを作る				薬剤選定から調合・スタイルに合わせた技術				
第4回	コンテストを行い評価する				カットスタイルに合わせたデザインカラー				
第5回	JHCAカラー知識、基礎用語を学ぶ				ワンメイクとリタッチのセクショニング				
第6回	ファッションカラー				ファッションカラーのワンメイクとリタッチ				
第7回	ファッションカラー				ファッションカラーの2タッチリタッチ				
第8回	ファッションカラー				グレイヘアのヘアマニキュア				
第9回	検定内容確認				ウィッグを使用しワンメイク				
第10回	検定内容確認				ウィッグを使用しワンメイク				
教科書									
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	トータルビューティラー			必修/選択	選択	担当者	森澤 みゆき・小出 さかみ			
	履修年次	1年全期	曜 日	全	授業方法		実習	単位数	2	時間数
学習目標	美容師に必要なヘアメイク技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける									
授業概要	基本的なアップスタイル技法を学ぶ。 クレンジング～ベースメイク作成、ポイントメイクの楽しさを知る									
年間授業計画										
回	主 題				授 業 内 容					
第1回	化粧品と道具の基礎知識				化粧品知識、道具の扱いと並べ方、正しい姿勢を学ぶ					
第2回	クレンジングの基礎知識				練習ウィッグを使ったポイントクレンジング・全体クレンジング練習					
第3回	スキンケアの基礎知識				クレンジング・スキンケアの相モデル練習					
第4回	ファンデーション・パウダーの基礎知識				ファンデーション・パウダーの相モデル練習					
第5回	コントロールカラー・コンシーラーの基礎知識				コントロールカラーからパウダーの相モデル練習					
第6回	アイブロウ・アイシャドーの基礎知識				アイブロウ・アイシャドーの相モデル練習					
第7回	ポイントメイクの基礎知識				アイライン・マスカラ（ビューラー）・リップ・チークの相モデル練習					
第8回	顔分析(ゴールドンプロモーション)・モデリングを学ぶ				ブラッシュオンメイクアップ(ハイライト、ローライト)の相モデル練習					
第9回	ポイントメイクの応用				ポイントメイクのバリエーション(色・形・大きさ・などによる変化)					
第10回	相モデル作品の評価				クレンジングからフルメイクを相モデルで仕上げる					
第11回	錯覚理論・特殊メイクを学ぶ				ステージメイクなど特殊メイクの作品を相モデルで仕上げる					
第12回	フェイスペイントを学ぶ				ハロインイベントなど特殊メイクの作品を相モデルで仕上げる					
第13回	道具の基礎知識と使い方				ピンの止め方・逆毛の立て方・ブラシの入れ方ウィッグ練習					
第14回	道具の基礎知識と使い方				コームの入れ方・ゴムの止め方ブラシの入れ方ウィッグ練習					
第15回	一束にまとめ上げる				ポニーテールをウィッグ練習					
第16回	シニオンを学ぶ				すき毛の扱い方・シニオンのウィッグ練習					
第17回	一束にまとめ上げシニオンを作る				一束のアップスタイル作品をウィッグで練習					
第21回										
第22回	一束のアップスタイルの評価				一束のアップスタイル作品をウィッグで作る					
第23回	編み込みを学ぶ				色々な編み込みをウィッグで練習					
第24回					編み込みを使ったアップスタイルを相モデルで仕上げる					
第25回	夜会巻きを学ぶ				夜会巻きをウィッグで練習					
第26回	ヘアレンジヘアを学ぶ				1束、編み込み、夜会巻きを入れたスタイル作成					
第27回					オリジナルデザインスタイルをウィッグで練習					
第28回										
第29回										
第30回	アップスタイル作品の評価				オリジナルデザインスタイル作成					
教科書	ビューティラーメイクバイブル									
参考書										
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。									

課 目 名	ベーシックカット			必修/選択	選択	担当者	森澤 みゆき・小出 さかみ		
				授業方法	実習				
履修年次	1年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	2	時間数	60
学習目標	美容師に必要なカット技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける								
授業概要	カットの基礎知識を把握し、カット技術を行うことができるように学ぶ。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	道具の扱いと正しい姿勢を学ぶ				シザーズ・レザー・コームの扱い方、正しい姿勢				
第2回	ブロッキング・パネルの基礎を学ぶ				ブロッキング、パネルの引き出し・角度・スライス				
第3回	ワンレングスカット				ワンレングススタイル				
第4回	グラデーションカット				グラデーションスタイル				
第5回	レイヤーカット				レイヤースタイル				
第6回	セიმレングスカット				セიმレングススタイル				
第7回	デザインカット				フリースタイル				
第8回	デザインカット				フリースタイル				
第9回	デザインカット				フリースタイル				
第10回	作品の評価をする				フリースタイル				
教 科 書									
参 考 書	BASIC×BASIC CUTの法則								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								